

地域への関心や意識を高める

14 建築系学生が考える魅力と課題の抽出

ここでは、前項の提案競技の一環として実施したワークショップについて紹介し、建築系の学生が考えた栃木の魅力と課題を示す。ワークショップの参加者は25名であり、そのほとんどが首都圏の大学もしくは高専で建築を学ぶ学生であった。ワークショップでは、まず栃木の様子を知ってもらうために、これまでの栃木の歴史まちづくりの経過について河東義之先生からお話いただき、さらに課題エリアの現況と市の施策や構想について栃木市都市計画課および栃木市教育委員会伝建推進室の職員から説明を受け、質疑応答の時間が設けられた(写真1)。そして、参加者を4班に分けてまち歩きを行い、魅力と課題の抽出を行った(写真2)。フィールドで気付いたことや感じたことについては、その後のグループ討議(写真3)において地図や写真、ポストイット等を使って整理分析(図1)し、最後に発表会(写真4)を行い各班の考えを共有した。各班の討議結果は以下の通りであるが、景観のような視覚的な町の現状から意見交換を行うことが多く、歴史的な環境形成の経緯やまちづくりのシステムのような部分にまで言及するような提案は希少であった。



写真1 河東先生による講義



写真2 まち歩きの様子



写真3 グループ討議の様子



写真4 発表会の様子



図1 グループ討議で作成したパネル

A班:

■ 討議の流れ

対象地区全体として、「地域住民にとって暮らしやすいまちづくり」と「観光地としてのまちづくり」の両者を共存できるまちづくりを進めていくべきという考えをもとに以下の3つがポイントとなった。

① 県庁堀にある旧小学校、旧市庁舎の今後の使われ方

- ・使われていないので寂しい雰囲気。
- ・舗装のデザインが工夫されているのに人通りが少ない。

提案: 高齢者や地域住民が利用できるプログラムを計画。⇒住みやすいまちづくり。

② 巴波川の通りと蔵の街大通りという2つの異なる性質を持つ通りのつながり方

- ・巴波川の通りは川から涼しさ、心地よさを感じる。
- ・2つの通りの間の路地のごちゃっとした感じは良いが、少し入りづらい雰囲気。

提案: 巴波川の通りと大通りに観光地としての性格を持たせ、両者をつなぐ路地を地域住民が利用できる場とする。観光者ゾーンに地域住民ゾーンが挟まれる形となって観光者と地域住民が共存できる。

③ 栃木町と嘉右衛門町エリアのつながり方

- ・歴史的建造物が少なく、連続性がない。嘉右衛門町へも道が折れていて、スムーズに導かれない。
- ・市役所のスケール感。

提案: 視覚的に連続性を持たせる。人が集まれるような場所。例えばお食事処などを置くことで賑わいを持たせる。⇒観光地としてのまちづくり。観光者を嘉右衛門町まで導く効果。

B班:

■ 討議の流れ

対象地区の魅力・課題の共有を行い、主に景観と空き家の2つについて意見が出た。

① 景観

- ・川の形に沿った嘉右衛門町の旧例幣使街道のカーブは、歩くことで次の景色が現れてくる魅力的な空間。
- ・昨年も訪れているが、嘉右衛門町の景観が変化しており、修景が着実に進んでいる。
- ・蔵の街大通りの4、5軒のまとまりをもった歴史的建物の景観が美しい。そうした建物群の間に現れる駐車場を、広場や歴史的な建物に合った空間に変えることで、大通りの魅力は大きくなるのではないかと。
- ・県庁堀跡は道も舗装され歴史的な空間であることがよくわかるようになっている。しかし、県庁堀跡の内側で道が整備されていないことや古い建物の保存状態が悪いなどの問題がある。

② 空き家

- ・嘉右衛門町や大通りには、店舗自体は閉まっているが、奥に住居があり高齢者が住んでいるといった空き家予備軍があった。
- ・一方、空き家を利活用しているお店もいくつか見ることができた。これをもっと増やしていけるとよい。

C班:

■ 課題・魅力の把握について中心となったエリア

① 嘉右衛門町

魅力:

- ・空き家を利用した店は隠れ家的な魅力がある
- ・緩やかなカーブの道

問題点:

- ・伝建地区として既存不適格の建物が未だ多い。
- ・空き家が多い
- ・日常的に利用する商業施設が少ない

② 巴波川沿いと県庁堀付近

魅力:

- ・水路と町の関係。水辺と人との近さ
- ・小学校の塀が低く、周辺と自然なつながり

問題点:

- ・交通量が多く、ゆっくり歩けない

③ その他

魅力:

- ・まとまった見世蔵群による景観
- ・観光として見せる建物が多い

問題点:

- ・駅から蔵の街までが遠く、つながりも無い
- ・こどもの居場所があるのか？

■ 提案

- ・こどもの居場所としての空き家(空き店舗)の活用。
- ・職人達との連携をはかる。栃木市のブランド力についてそれぞれの地域に特徴を持たせたまちづくり
- ・嘉右衛門町と市街地のコンセプトをそれぞれ考える。(駅前からの町並みのグラデーションを作る)

D班:

■ 討議の流れ

巴波川沿いの魅力や、嘉右衛門町と栃木町を比較するなど下記の3つを中心に話しが進み、提案では主に地区の分断など、対象地区全体の連続性や繋がりについての討議となった。

① 巴波川を中心とした水を活かした魅力

- ・巴波川沿いは、蔵や橋、連続した黒塀など歴史的な景観要素が多くあり魅力。
- ・大通りにも元々水路があった。大通りにある蔵の街広場は水路が設けられているのに水が流れていない。

② 嘉右衛門町と栃木町の比較、連続性について

- ・栃木町の終わりから嘉右衛門町までは現代建物ばかりで繋がりが無い。
- ・嘉右衛門町は重伝建地区だが伝統的建物は入りづらく、大通り沿いの建物の方が生きている。
- ・駅から栃木町までの道も近代的で繋がりは感じられない、ただ学習塾通りになっていてそれはそれで駅周辺の特徴として良いのかもしれない。

③ 大通り沿いの路地

- ・大通りから東側の路地を覗くと寺社が現れるなど奥行きが感じられる。
- ・路地側にもお店が出ている箇所は、入りやすく生活者の気配も感じられる。

■ 提案

- ・駅ー栃木町地区ー嘉右衛門町の3地区の繋がり方を考える。

例えば、駅ー栃木町地区では、栃木町の入り口付近は、「蔵のまち」の始まりが分かるような道路舗装の工夫を行うことや、栃木町ー嘉右衛門町の境界では水の流れていない蔵の街広場など既存の使いきれていない魅力を有効に使い、両地区から人の集まる場をつくるなど。

- ・対象地区の南北動線(巴波川・大通り・裏通り)を繋ぐ路地を地域の顔が見える空間にする。縦に抜けるだけでなく、地区全体に様々な結びつきを持たせる。